

---

# 恋色空模様～双子の兄～

ラック

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋色空模様〜双子の兄〜

### 【Nコード】

N5349Y

### 【作者名】

ラック

### 【あらすじ】

伊東誠悟には双子の兄、伊東凜がいた。凜は誠悟と双子の兄弟なのだが顔も全然違えば身体能力も全然違う。そんな兄、凜が主役の物語

## 始まり

こうしてこの島に来ることになるとはな・・・

俺は今、神那島という島に来ている。俺の家族はこっちに来ているよ。うだ、妹は療養のためと島に・・・双子の弟も最近この島に来たと聞いている

きっと俺が来たと知ったら驚くだろうな・・・なんせ誰にも告げずに来ているのだから

そうして、もう一つの我が家へと向けて歩いていくのだった

数時間後・・・

「はあはあ・・・ありえんよ、何も無いが故に家に行くまでにここまで疲れるとは」

現在、やっとの思いで我が家へと到着したのである。途中道に迷うこともあったせいかな、なかなか目的地に着けず大変だったが、やっとの思いで辿りついたのだ。

「もしかして・・・凜か？」

意気揚々とノックをしにいこうとしたら声をかけられた。この声をかけてきたのが俺の双子の弟、伊東誠悟だ

「よっ、元気してたか？」

「おおお！！美琴ー！！」

そう言つて叫んで家に入ったとたんに物凄い音が聞こえてきた。ん  
ー・・・美琴つてそんなに凶暴だったか・・・？

「り、りん兄・・・！？」

奥から飛び出してきたのは懐かしの妹の顔だった。うん・・・前よ  
り元気そうだ

「おいつす、暇だから来ちまつたぜ」

「暇だからって・・・学校は？」

「んー・・・こっちに転校つてことになってると思うぞ？」

美琴はどこか嬉しそうだ、そんなに誠悟が嫌なのか？

「まあ、何はともあれ・・・おかえり凜」

「おう、ただいま！そんでよろしくな、誠悟、美琴」

そうして俺の島での生活は始まった

## 驚きの転校生

「それにしても驚いた、こっちに来るなら連絡してくれたら良かったのに」

誠悟と今は話している、美琴は顔が少し赤い・・・まさか、熱でもあるのだろうか？

「どうした、美琴？」

「え、え！？な、なんでもない」

なんていうか、大きくなつてツンデレ要素が入った・・・のか？

「懐かしいよな、凜は俺達にとってはヒーローみたいなもんだっ  
し」

「うんうん、りん兄って何かあるとはすぐに駆けつけてくれて助けてくれるんだよね」

嬉しいけど、俺はそんな凄い奴でもない気が・・・どこにでもいる学生そのものだ

「ははは、それは買いかぶりすぎだつて」

「そんなことない！だって私がイジメられてた時も助けてくれたし・・・」

「愛する妹がピンチなのに駆けつけない兄なんているもんかよ」

だって、そうだろ？自分の妹が傷つけられて黙ってなんかいられるか

「俺が喧嘩に巻き込まれたときも助けてくれたし……」

「りん兄って強いもんね……」

誠悟はどこか懐かしい目で、美琴は少し苦笑気味だ

俺は身長が高いこともあってか今まで喧嘩に負けたことがない

「まあ、なんにせよこうして二人にまた会えたのは嬉しいかぎりだ」

「そういえば、りん兄は一人暮らししてたんだもんね……」

そう最近まではずっと一人暮らしだったのだ。理由は簡単、一度やってみたかっただけだ

「親父も御袋もいねーんだったな」

ごく稀に帰ってくるらしいが、そんなときは労ってやるか

「ふあゝ……俺ちよつと疲れたから寝たいんだけど、どこか寝れる場所はあるか？」

「あ、りん兄さえ良ければ私の部屋使ってもいいよ」

「ありがとな……あ、それと明日から俺も学院に行くから案内とかよろしくなっ」

そう言つて美琴の部屋で仮眠を取るつもりだったんだが、疲れもあつて深い眠りへと落ちていった……

・翌日・

「伊東 凜です。よろしくお願ひします」

双子というのもあつてか一緒のクラスにされたのはありがたい。これですしは気が楽になるといふものだ

「あのー……もしかして伊東くんの兄弟？」

そう言つて話かけてきたのは、真面目そうな雰囲気のある青い髪留めをした女の子だった。たしか、名前は橋本さんだったはずだ

「そうだよ、一応双子なだけだな。似てないだろ？」

ちよつと似てないかも、と橋本さんも笑っている。それぐらいに俺と誠悟は似てないのだ

「お前、本当に双子なのか？」

このゴツツイのが藤堂くんだ、たしか

「ああ、正真正銘の双子だ」

転校、最初の出だしとしては上々であるう

「えーと、伊東 凜くんはどこかなー？」

そうして教室に入ってきたのは、この島でも珍しい金髪・・・そしてツインテールだった

「ふーん・・・結構楽しめそうじゃない」

何か勝手に品定めされたぞ。一体誰なんだろう？

「凜・・・聖良に目をつけられたよ。多分」

聖良？さっきの女の子の名前だというのはわかったが、何かの有名な人のだろうか

その後も色々な質問攻めにあい一日を過ごしていくのだった

## 【日常？】凜の力とリスク

「凜、そろそろ起きろよー！」

休日、朝からそう呼ぶのは我が双子の兄弟伊東誠悟だ。そうして、時計を見ると既に11時を回っている

昔はここまで朝には弱くはなかった。ただ、最近気がつき始めたことがある

どうやら俺は人が引き出せる力の上限を上回るほどの力が出せるらしい・・・いわゆる限界突破。その代償がこれだ

体への負担は大きく、こうして長く眠ってしまうことがある。今は気にするほどのレベルではないが一つ気が掛かりなのは、この休息は昔は無かったが現在になって必要とするようになったということ

昔もこの力を使っていたのは間違いないだろう。だとすれば、昔に溜まっていたものが今さらきいているとか？考えたくはないが、そうだとしたらこれ以上無理するわけにもいかない。力を使うたびに疲労は蓄積されていき、一気に精算することになったら酷いことになりそうだ

俺は軽く身支度を終えると、誠悟がいるであろうリビングへと向かう

「ふああ・・・」

「随分とデカイ欠伸だな・・・まだ、眠いのか？」

「まあな・・・今日が休日で助かった」

「とりあえず適当に朝食？作っておいたから食べよ」

「さんきゅ」

まあ、こんな俺だがこの島に来たのは幸いだ

以前住んでいた町では厄介なことばかりだった。人助けとはいえ、色々な奴と争ったりと・・・

その中でも一番面倒なのが神崎真也

この神崎はしつこいクセに強い！やられたことはないが、逆に俺が神崎を倒したこともない。つまり、アイツと俺では互角なのだ

そして、アイツの一番厄介なところはどこまでも追ってくるということ・・・実際こっちに来た時にも追ってくるんじゃないかって心配したぐらいだ

神崎は両親が二人とも海外にいるらしく、一人暮らしには十分過ぎるほどの金だけが送られてくるらしい・・・というのを聞いたことがある

もしかしたら、この島への引越しも簡単なのでは？と、警戒していたが今のところ流石にそれは無かったようだ

「どうだ？学院には馴染めそうか？」

「ん？ああ、みんな面白そうな奴らばっかだし期待以上のものを感じ

「じるぜー!!」

「ははは・・・ウチの風紀委員には気をつけるよ?」

「風紀委員?何でだ」

「まあ・・・そのうちわかる」

?よくわからないが、これで俺にまた一つ面白そうなものが増えたわけだ

ちなみにクラスメイトの名前は結構覚えたつもりだ・・・一応先生も。委員会や生徒会などは柄でもないんで絶対に入らないことになっている

「それにしても凜って身長あるから体格良いのかな?と思ったけど、春樹とかに比べると細いな・・・」

「細い言つな!!アイツが太いんじゃない!!」

はあ・・・男なのに細いとか・・・意外にショックだな。ああ、鍛えようかな・・・本気で

「あ、そういえば美琴はどこいったんだ?」

「美琴なら友達のとこだ」

友達か・・・まあ、そのうち顔を合わせるだろうからその時にでも挨拶したらいいだろうな

「何も無えよな、ここ……あ、悪い意味じゃないぞ？」

「良い意味で何も無いという言葉が出るのか？」

「まあ……あっちじゃ、気が滅入るほどのトラブルもあったしな」

「そつえば、凜が一人暮らししてた頃の話って聞いてないな」

正直、そこまで面白いものでもないだろう……

だが、こんな休日で久々に会った兄弟との話題には十分だった。俺達は美琴が帰ってくるまで談笑し、今までとは違った、新たな一日の終わりを迎えるのだった

【日常？】凜の力とリスク（後書き）

伊藤 東の誤字を指摘してくださってありがとうございます。

一通りの誤字は修正した！……つもりです；

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5349y/>

---

恋色空模様～双子の兄～

2011年11月28日01時49分発行